

2021 年度 事業報告

[1] 福祉会の実施事業について

よさみ野福祉会として、当該年度に行った事業の概要は以下の通りとなる。

- 1 障害福祉サービス 生活介護
- 2 障害福祉サービス 共同生活援助
- 3 障害福祉サービス 特定計画相談事業
- 4 障害福祉サービス 短期入所事業
- 5 実習・ボランティア等受入

[2] 生活介護事業について

1 実施場所(2か所)

よさみ野障害者作業所 (定員30)
第2よさみ野障害者作業所 (定員15)

2 定員および利用実績について

(a) 定員	45 名	昨年(45)
(b) 利用者数	43 名	(45)

※ 利用者については、年度当初43名であり、年度途中での退所者が1名あり、年度末での利用者数は42名となる。

(c) 開所日数	254 日	昨年(251)
(d) 延利用者数	9728 人	(10305)
(e) 平均出席率	89.07 %	(91)
(f) 平均障害程度区分	5.22	(5.19)

※ 年度内にて利用者、職員、またその家族等に新型コロナの感染または陽性反応がでる事態がたびたびあり、一定期間の休所を余儀なくされることもあった。そのため、延利用者数自体の減少、およびそれに伴っての平均出席率の低下につながったものと考えられる。

[3] 共同生活援助事業について

1 実施場所(2か所)

ぼむ (定員5)
こりす (定員4)
らんぶ (定員4) ※2020年9月より運営開始

2 定員および利用実績について

(a) 定員	13 名	昨年(13)
(b) 利用者数	13 名	(13)
(c) 開所日数	365 日	(366)
(d) 延利用者数	4109 人	(3624)
	(内 ぼむ	(1583)
	(内 こりす	(1378)
	(内 らんぶ	(663)

(e)	平均利用率	86.6 %	(86.34)
	(内 ぼむ	82.96 %)	(86.74)
	(内 こりす	99.04 %)	(94.4)
	(内 らんぷ	78.7 %)	(77.84)
(f)	平均障害程度区分	4.97	(4.78)
	(内 ぼむ	5.18)	(5.01)
	(内 こりす	4.75)	(4.74)
	(内 らんぷ	4.99)	(4.95)

※共同生活援助(グループホーム)については、らんぷの実績が丸1年分となったことで、延べ利用者数については大幅な増加となった。各グループホームでは、コロナ発生時に自宅待機の利用者が多かった「ぼむ」で利用率が低下し、逆に「こりす」はホーム待機の利用者が多かったことでむしろ利用率が上昇した。利用者のかかえる生活の困難さは、当人だけでなく家庭環境によっても大きく影響を受けるものであることから、ことさらグループホームの重要性が増したと考えます。

[4] 特定計画相談事業について

1 実施場所 よさみ野障害者作業所

2 利用実績

(a)	利用者数(名簿)	39 名	昨年(44)
(b)	開所日数	255 日	(252)
(c)	延利用者数	225 名	(236)
	※利用支援あるいは継続支援の利用のあった回数			
	(内 利用支援	44)	(44)
	(内 継続支援	198)	(198)
(d)	加算算定数	428 回	(424)

※年度内での利用者名簿(総数)では、当初38名から1名追加後2名の契約解除、さらに1名の追加があり、年度内の最大人数は39名、年度末の名簿人数は38名となった。利用および継続支援を中心としながら、関係事業所や医療機関との連携を精力的に行っており、年度中には新たに医療体制加算にかかる研修を修了し、年度末からではあるものの、当該加算の算定を開始した。

[5] 行事等の開催あるいは参加について

1 行事への参加

	一昨年(山之内連合運動会)
	(なかまの集い)
	(あいあいあいまつり)
	(バス旅行(主催))
12月18日 合同クリスマス会	(合同クリスマス会)

2 販売(授産)

(a)	区役所販売(毎月 第1・3月曜日)	※一昨年4月緊急事態宣言を受けてより
(b)	なごみ(毎週木曜日)	休止中

[6] 実習・ボランティア等受入

1 介護体験実習等(大学生・介護・教職課程)

実習参加者	0 名	昨年(1)
延べ実習日数	0 日	(4)

2 利用体験実習

実習参加者	2 名	昨年(0)
延べ実習日数	3 日	(0)

[7] 職員関係

1 雇用職員

管理者・サービス管理責任者 4名
(相談支援専門員1名含む)

(生活介護)		常勤	非常勤	他と兼務
生活支援員	17名	5	12	3
調理員	2名		2	
医師	1名		1	
看護師	1名		1	

(共同生活援助)		常勤	非常勤	他と兼務
生活支援員	9名	1	8	3
世話人	6名	1	5	1

(短期入所)		常勤	非常勤	他と兼務
生活支援員	2名	2		2

2 実施職員研修

年間研修回数	11回	
延参加人数	19名	
(新人研修関係)	回	名)
(人権研修関係)	4回	10名)
(支援研修関係)	1回	2名)
(実務研修関係)	3回	3名)
(運営研修関係)	2回	4名)

[8] その他、年度を通して

昨年度に運営を開始したグループホームおよび短期入所について、グループホームについては、定員による通年での運営となり、利用者の実情に合わせた支援が定着してきましたが、短期入所については利用希望は多いものの、受け入れ職員の体制が整わず、6月より助成のみ、少人数での運営の再開となりました。

各事業とも、コロナによる影響を大なり小なり受けることとなり、生活介護での数週間の休所、グループホームでの日中待機など、様々な形で利用者に負担を強いるものとなりました。

その反映として生活介護での延べ利用者数の減少や家庭での受け入れ態勢を伺わせるホームごとの利用率の変動などがあげられます。實際上、多くの利用者が作業所での日中活動に制限を受ける結果となり「いつもの日常」がいかにか不安定な基盤の上に成り立っていたのかが考察されます。そういったイレギュラー、不測の事態に対処していくには体制面での十分な拡充が求められるものの、この数年来、人材確保の取組みは十分とはいえないのが実情です。

一方で、様々な行事・取組の制限がある中で、この世相を反映して新たな社会問題、人権問題も生まれており、それに対応した各種研修もこれまでの例になかったものが増えています。限られた体制の中でも積極的に研修などに参加し、あたらしい社会の在り方に即した新しい支援の方向性について取り組む必要性から、昨年度よりも研修への参加は回数・参加者ともに増えています。

法人として、支援者としての質の向上をはかりつつ、人材確保と並行して人材育成に繋がる取組を強めていく必要があると考えています。